

つくろう会通信

第2号(2001.7)

発行：情緒障害特殊学級
つくろう会

6月定例会報告(2001.6.28)

ものすごい大雨の中、集まったのは12人。
今回から保健センターのプレイルームをお借りして、子供たちはおもちに大喜び。
大野城すばる園南九州センターの田邊先生、国分市手をつなぐ育成会の副会長さんも参加してくださり、外のかみなりをものともせず(?)充実した会になりました。

7/8隼人町の日当山小学校で開催されるADHDセミナーについて、主催者のLDを考える会「てんがらもん」のYさんがお話してくださいました。

また、Yさんの体験談も聞けて、現在の小学校事情が少しはわかったかな!? セミナーでは、受付でてんがらもんのリーフレットと一緒に、つくろう会の会員募集チラシを渡してくださるそうです。(どうもありがとう!!)日曜日はいろいろ忙しいけど、なんとか時間をやりくりしてできるだけ参加しましょう!!

後半は、2つのグループに分かれて話し合い。

来年就学予定の年長さん組は、11月の就学相談の前に、教育委員会の担当者と会うことにしました。就学先をすでに決めている人、まだまだ迷っている人、いろいろですが、就学相談の細かい流れを聞きたいということと、普段の子供の様子を見てもらいたいということで、保健センターのプレイルームに子供同伴で集まることにしました。
“どうなるか解らないけど、11月まで何もしないでいるよりはいいんじゃない。”と言うのが皆の一致した意見です。
教育委員会の方、宜しくお願いします。

残りの年中さん以下の組は会報について、話し合いました。
いろいろ意見が出たようです。
これからの会報作りに活かしていけたらと思います。

連絡先

情緒障害特殊学級つくろう会
代表

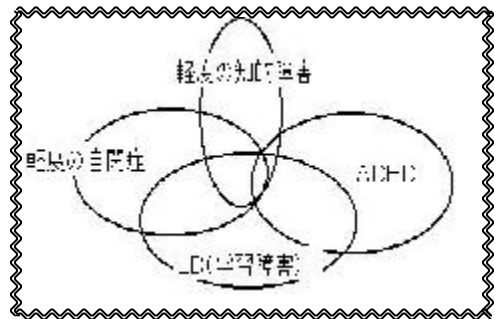
Tel

E-mail air-papamama@mbh.nifty.com

<http://homepage2.nifty.com/airpapa/>

脳の障害の連続性について

軽度の知的障害、軽度の自閉症、LD、ADHD等は「脳に何らかの理由がある障害」という点で共通しており、それらは複雑に重なり合う場合も見られます。（右図参照）特に脳に軽い障害が推定される場合は、それぞれの境界線はあいまいで、他の障害の特性を重複して示す子どももいます。また一人の子どもが成長に従い、診断名が変わってくるケースについて、分かりやすく書かれた本がありますので紹介します。



* 自閉症、自閉性障害の子どもたちは、1歳半健診のときに500人に一人いないし、二人の割合で見つかっています。その中のある子どもたちは、2歳半から3歳ぐらいの間にかけて、わりあい急に言葉の発達などがよくなっている、いわゆる自閉行動が改善されていくケースが、30%ぐらいはあるのです。三人に一人ぐらいは、ある時期から急に発達が上向いてくるのです。三歳ぐらいになった頃に、はじめてその子を専門家が診るとしたら、とてもこの子が自閉症、自閉性障害だったとは思えない状態になる子どももいるのです。では、そういう子どもが、そのまま一般の子のようになるかという点、これはなかなかそうはいかないのです。注意欠陥多動性障害（ADHD）や、学習障害（LD）といわれるような、他の診断分類の基準に入るタイプの子供のようになっていくことが多いのです。一人の子供がそういう経過をたどることがありますから、自閉症と、注意欠陥多動性障害や学習障害といわれるような子供とは、どうも連続性があるということが考えられると思います。*

（児童精神科医 佐々木正美著 続 子どもへのまなざし（福音館書店） より抜粋）



もっと知ってください。
スペシャルニードの
子どもたちのことを...



このコーナーは私たちの子どもの紹介コーナーです。

自閉症のNちゃん♪

Nちゃんは年長さん！！
いまだに”ことば”を持っていない...
理解言語は少しずつ増えて園生活は楽しく過ごしています。
お外あそび、水あそびが大好きでいつもくつ下と靴は真っ黒！！
鉄ぼうで前回りが出来た時は何回も何回もやって見せてくれた。
お友だちや先生方がNちゃんの事を理解してくれるからお母さんは
安心して”いってらっしゃい。おむかえるからね”と
Bye - Byeできているんだよ！！
小学校もみんなと同じ所に行けるといいなー！！

きっと行けるよ！ 行こうね、みんなで！！